

「保育園でのボランティアと文化祭での取り組みを通して考えた私の将来の夢」

筑波大学附属坂戸高等学校 3年

西出 博美

私は高校へ入学するまで、自分の住む地域のことしか知らず、誰かに何かが起きるとすぐにはわかるような生活をしていて、それが嫌な時もあり、また逆に救われる時もあった。しかし、高校へ入学し、新しい友達や先生に出会い、生活の範囲が一気に広がった。自分が他者へ目を向け、他者へ働きかけないと何が起こったのか気づかず、気づいてもらえなくなった。今までいかに狭い範囲で生活して、狭い視野で物事を見てきたのかを思い知らされた。それに気づいた私は積極的に「外の世界や他者に関わろう」と考えた。

そして、保育園でのボランティア活動に参加した。中学生の時に一度参加したことがあり、その時の体験から漠然と「保育士になりたい」と思っていた。進路の目標をはっきり決めようと思い、高二の夏、再び参加した。その保育園では、家庭菜園のように野菜を育てていた。ナスとキュウリを浅漬けにして先生が持ってくると園児達は喜んで食べていた。私は、ナスは子供の苦手な野菜の1つなのではないかと思っていたので、園児達が喜んで食べる様子に驚いた。自分の身近な所で世話をした野菜だから園児達も食べたくなかったのではないかと私は感じた。

五日間の活動で、保育園の先生をはじめ、園児、保護者など沢山の人に出会い、話をすることができた。そのおかげで、以前より柔軟に物事を考える事が出来るようになったと思う。何か悩み事があった時、他の人に相談して、アドバイスをもらうことも大切で、それにより、気持ちが軽くなる事もあると教えてもらったように思う。

学校生活では、在学している総合学科の高校で、私は現在、保育や福祉を学んでいる。同じクラスの仲間には、農業や工業、商業などさまざまな学習をしている人がいる。担任が農業の先生という事もあり、私たちは高2の文化祭のクラス企画で、野菜と米を育て、それを調理し販売することにした。5月にドロドロになりながら田んぼを作り、その後田植えをし、夏休みにはクラスみんなで毎日当番を決め、草むしりや水やりをして野菜や米の成長を見守った。文化祭の近くになるとクラスで話し合い、メニューやレシピを考え何度も試作を繰り返した。稲刈り・脱穀・精米という一連の作業も全て自分達が手作業で行った。世話をする大変さ、無農薬の安全性とその引き替えに害虫がつくこと、米や野菜を収穫した時の喜びなど初めての体験ばかりだった。こんなに苦労して収穫した食べ物を粗末にできないと当たり前のことを改めて実感した。

保育園でのボランティア体験と文化祭での取り組みという二つの経験を通して、私は「食育」に興味を持つようになった。食育とは、知育・体育と並び、その重要性が最近注目されている教育分野だ。近年の子供達に増加している、キレる・ひきこもりなどの問題行動

と朝食欠食率の増加には相関があり、子供が精神的に不安定なのは食における家族間のコミュニケーション不足やインスタント食品・ファーストフードなどの普及が背景にあるのではないかとされているからだ。平成17年4月からは、小中学校に栄養教諭を配置する制度が始まった。私は、その食育について高校生活の集大成となる卒業研究で取り組み、「食」の大切さを子供に伝えたいと思った。

ちょうどそんな時に、友人のお母さんが、文化祭での私たちの活動に関心を持たれ、勤め先の保育園と高校の「保育」の授業が連携して食育活動を行うことになった。私は保育の授業に並行してその活動に関わり、卒業研究を進めることになった。その保育園では、食べ物を大切にせず食べ物で遊んでしまう子や好き嫌いの激しい子などが問題になっていて、今後はそのような子供に焦点を絞り、食育による様子の変化や今後の食育の在り方などについて自分なりに考えを明らかにしようと思っている。

今、私の考える食育の問題点は、子供の周囲の保護者や教師がこうした問題に対して受身の状態にいるという点だ。周囲の大人たちの意識が低いままでは、いくら栄養教諭を配置しても効果は低いのではないだろうか。「栄養はバランス良く摂らなければいけない」という程度のことならば、保護者でも言えるだろう。しかし、実際に野菜や米を育てたり、農家の人の話を聞く体験的な機会を設けるとするのは、簡単ではない。教師がJAなどの関係機関に対して積極的にアプローチをしなければ成立しにくいことだと思う。しかし、こうしたアプローチが成功すれば、農家の人たちも学校関係者に影響され、自らの経験や体験を生かし、学校教育に関わって下さるのではないだろうか。このような動きがうまくいけば、子供たちに対して良い食育を行える流れが出来てくると思う。

卒業研究を進めていく中で、進路のことや今後の自分のことを考えた。高校二年までの私は、「子供が好きだから」という単純な理由で保育士になろうと思っていた。しかし、沢山の子供と出会い、「この子たちは大きくなったらどんな風になるのだろうか？」と考えるようになった。子供たちに良い教育を受けてほしいし、それを教育する側に立ち、私がよくしたいと考えるようになった。大学へ進学して教育について学び、高校教師になりたいという思いに変わってきた。私は高校へ入学し、たくさんの良い先生方に出会った。色々な先生方と話をすると、刺激を受け、勉強になることがたくさんあり、私もそんな先生になりたいと思うようになった。保育士から高校の教師に夢が変わると、対象とする子どもたちの年齢が全然違う。けれど、私の大好きな子どもたちが成長していく中で、彼らが今後どんな教育を受けていくのか興味がある。だから、私は大学で教育を学び、そんな彼らの受ける教育を少しでも良くしていきたいと考えている。それが今の私の夢だ。